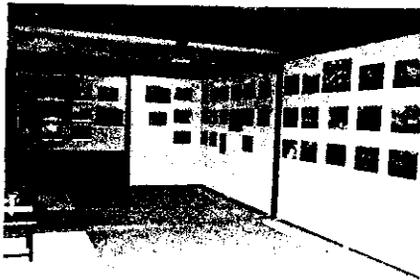


古文書講座「はじめての古文書」 第 2 回目を開催しました

2 回目となる今回は、本格的に古文書の解読に取り掛かりました。瀬崎先生の解説をみなさん熱心に聞き入り、配られた資料に見入っていました。次回の古文書講座は 7 月 9 日（土）10 時から 11 時半、「九度山蟄居中の昌幸による流罪赦免の書状」です。



写真展「杉村公園の四季」開催中



いよいよ、6 月 15 日（水）から写真展「杉村公園の四季」がスタートしました。北森久雄氏が 30 年間撮り続けた杉村公園

の写真の中から 47 枚を厳選し展示しております。四季折々の自然の美しさをぜひご覧ください。

場所：松林荘 大広間（杉村公園内）

開催期間：平成 28 年 6 月 15 日（水）

～平成 28 年 8 月 28 日（日）

* 月曜日・祝日の翌日・荒天日を除く

* 10 時～15 時

入場料：無料

* 開催期間中は自由にご覧いただけます



杉村林之助氏と杉村公園 No.2

高野口尋常小学校を卒業し高等科 1 年になった林之助少年は、学校が終わると橋本まで 5 km を歩いて石油を仕入れ、近郊の家へ売り歩きました。当時の明かりはランプが主で石油はよく売れたそうです。1 日の売り上げが工事関係者の日当と同額であったことから、林之助少年は商売の面白さに目覚めます。

高等科 2 年を卒業すると、両親は中学校への進学を進めてくれましたが、商売で立身することを決心していた林之助氏は大阪の薬店に奉公に出ます。1 年ほど過ぎたころ、朝鮮の京城（現ソウル）で酢の製造販売を行っていた叔父に呼び寄せられ海を渡りました。

競争相手に勝つため、取引先で掃除や店の手伝いを進んで行き、営業成績をどんどん上げていきました。林之助氏は自伝の中で当時の奉仕の精神が、その後、独立後に大いに役立ったと語っています。また、当時を振り返り、たまにはサボって映画館に行き、そこから仕事の電話をかけたりしたと、少年らしさが残るエピソードも語られています。

叔父の店で 5 年間働き、20 歳の時（1923 年）に軍隊に入隊します。林之助氏はどうしても自動車の運転兵になりたいと、上司に思い切って志願し、運転兵になることができました。新兵が位の高い軍人に直接志願することなど、当時では考えられないことで、この時の「当たって砕けろ」の精神は、その後の商売にも生かされ、林之助氏は「当たって砕けろ」式の商法と名付けています。運転兵となった林之助氏は横須賀で関東大震災に遭遇し、救助物資の運搬など、運転兵として活躍しました。

（奥 裕香子）

橋本市郷土資料館

〒648-0096 橋本市御幸辻 7 8 6

電話・fax 32-4685

休館日：月曜日／祝日の翌日 12/28～1/4

開館時間：9：00～17：00（受付 16：40 まで）

